

内蔵の機能不全に関する事例

令和5年度 実務研修8日目（更新・再研修7日目）

3. 社会との交流

リスクや注意点等の情報をかかりつけ医から得て、**その人らしい活動と役割を維持する支援。**

4. 社会資源の活用

- ・疾病の理解・食事や運動の生活習慣の改善、適切な**服薬管理**が重要
- ・地域の研修会や市民公開講座等の情報提供。
- ・**薬剤師など専門職による服薬管理**

第4節 生活習慣を改善するための方法

P. 306

1. ふだんの体調の管理

- ・**生活習慣に深く関係。**
- ・**食事、運動、生活リズム等をバランスよく適正に保つ。**
- ・心疾患などの病態が進行している場合は重度化、悪化の予防に配慮したケア
- ・**病状の把握。かかりつけ医との連携。**

2. 活動性の向上

- ・閉じこもりにならず、活動を促す支援
- ・病態に応じた活動制限を理解する。
- ・主治医と連携し可能な活動を支援する

第4節 生活習慣を改善するための方法

P. 306

3. 社会との交流

リスクや注意点等の情報をかかりつけ医から得て、**その人らしい活動と役割を維持する支援。**

4. 社会資源の活用

- ・疾病の理解・食事や運動の生活習慣の改善、適切な**服薬管理**が重要
- ・地域の研修会や市民公開講座等の情報提供。
- ・**薬剤師など専門職による服薬管理**

第4節 生活習慣を改善するための方法

P306

生活習慣病とは？（参考）

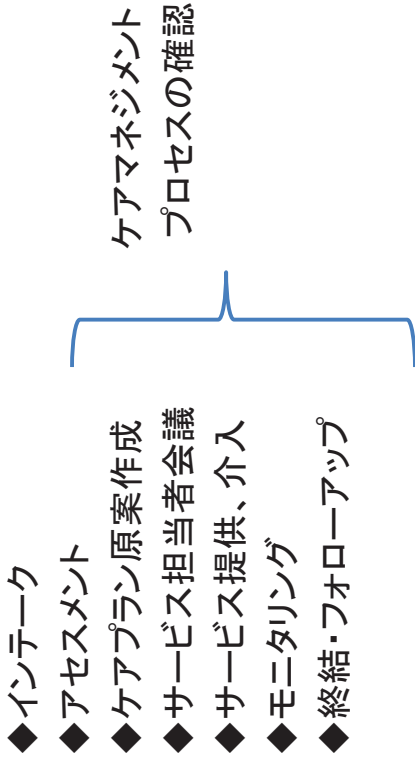
◆定義：糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、高血圧、高尿酸血症など、生活習慣が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称。

（以前は、「成人病」と呼ばれていた。）

本人の努力次第で、病気を予防できる、あるいは軽度で済ませられる。

第5節 内蔵の機能不全等の特性に応じたケアマネジメントの具体的方法

P307



演習

- ◆事例
自由に自宅で過ごし、心疾患の悪化を繰り返している利用者（上原絹子さん・84歳）への支援 P311

個人ワーク 15分

- ◆事例の読み込み
 - ・基本情報に関する項目（P310）
 - ・エコマップ 薬剤情報（P311）
 - ・主治医意見書（P312 P313）
 - ・アセスメントに関する項目（チェックポイントシート）（P314 P315）

演習

P283



支援にあたってのポイント

- ①生活習慣の改善
- ②服薬状況、食事制限、運動量などの把握

演習

上原絹子さんの全体像をまとめましょう

個人ワーク 30分

- ◆ステップⅠ
上原絹子さんの過去～現在まで
「このような生活をしてきた、こんな人……」と
文章でまとめてください
- ◆ステップⅡ
現在の上原さんと家族の状況
今、何が起きていてどのようなように思っているか？

演習

上原絹子さんの全体像をまとめましょう

グループで意見交換・共有、発表

◆ステップⅠ

上原絹子さんの過去～現在まで
「このような生活をしてきた、こんな人……」と
文章でまとめてください

◆ステップⅡ

現在の 上原さんと家族の状況
今、何が起きていてどのようなに思っているか？

演習

グループワーク

必要な支援の確認

ステップⅣの「必要と思う支援」について
グループで意見交換をして下さい

→ 発表

演習

個人ワーク 30分

◆ステップⅢ

上原さんと家族が望む生活は？

◆ステップⅣ

望む生活の実現を阻害している課題を解決
するために、必要な支援は何でしょうか？
※サービスマンではなく支援の内容で考えて下さい。

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆心疾患（大動脈弁閉鎖不全症・慢性心不全）
があり症状コントロールが不良である。

⇒ ＊ 定期受診による病状管理、治療の継続

＊ 状態観察と異常の早期発見

＊ 処方内容を守り正しく服薬するための服
薬管理

＊ 塩分、水分制限などを守るための食事管
理と食事支援 など

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆心疾患

⇒ * 家族を交えて食事管理の重要性を説明する。(主治医など医療者から)
* 塩分を控えた食事の準備、提供
* 定期的な体重測定
* 食事制限を意識した買物支援
* 水分や塩分を控えることの声かけ、意識付(支援者で統一した方針と対応)
* 塩分制限でも美味しく食べられる調理工夫
* 治療食の提供ができるサービス など

食事管理

理と食事支援

【見通し】

定期受診・服薬管理・食事制限を行うことで、症状のコントロールができて、病状が安定する。本人が望む自宅で生活することが継続できる。

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆水分

⇒ * 生活意欲が低下し、家事も以前のように出来なくなっている(長男:家でゴロゴロしている)
* 痛みへの対処(変形性膝関節症)
* 被害妄想や認知症状に対する適切な医療体を軽減する
* 傾聴と精神的支援により本人のストレスを軽減する
* 友人や近隣との交流を継続できる
* 培ってきた美容師の技術を発揮できる場の提供(ブローをして喜んでもらった) など

減

れる調理工夫

* 治療食の提供が

サービス

など

【必要な支援

◆生活意欲

くなっている

⇒ *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

* *

【見通し】

独居の不安や寂しさなどの意

欲低下の状況から、できるこ

とを少しずつ増やしながら自

信を持つことができ、「自宅で

夫と老後を過ごしたい」との

思いに近づくことができる。

の提供（ブローとして

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

など

演習

個人ワーク(10分)

上原さんが「望む生活」を送るために、
生活習慣の見直しが必要と思われます。

【演習15－⑤－3 P327】

上原絹子さんを支援する上で

どのような工夫をすれば

適切な服薬管理ができると考えますか？

演習

グループワーク

【演習15－⑤－3 P327】

上原絹子さんを支援する上で

どのような工夫をすれば

適切な服薬管理ができると考えますか？

【演習15－⑤－5 P328】

「好きな物を食べたい」と考える上原さんに

誰がどのように説明するのが有効だと思いますか

グループで意見交換をして下さい → 発表

服薬管理の工夫の一例

【目標】薬を間違えずに飲むことを継続できる

- ・本人と長男に内服治療の必要性を説明し、どのようにすれば服薬できるのか一緒に相談し服薬管理の方法を確認する
- ・投薬カレンダーなどで飲みやすいように薬をセットする
- ・本人の不満にならないように話し合いながら自分で行う方法で管理すること
- ・ことで自信が持てるようになる
- ・定期的な訪問により内服状況を確認する
- ・サービス事業者や支援者へも服薬の重要性和内服状況の情報共有しながら、服薬を促していく。
- ⇒薬剤師へ服薬管理を依頼する。訪問看護による健康管理療養指導
- ・主治医との連携
- ・主治医から病状や治療内容の情報収集しつつ、服薬や生活状況の詳細を報告し、適切な治療、処方へ繋げる
- ・本人へ服薬の必要性の継続的な説明と促し。時には励ましも依頼する
- ・定期的な受診を行う。できれば長男が同行し一緒に説明を聞く

演習

本日午後の演習を通しての気づき

個人ワーク(10分)

⇒ 発表 (5分)

食事制限を誰がどのように説明するか
食事制限の工夫の一例

【目標】塩分や水分を制限しながら美味しく食事ができる

- ・本人の不満にならないように話し合いながら、塩分・水分の制限 が必要なことを伝えていく。今の生活を続けて行くと今後どのようなリスクがあるかを説明し自分で生活を変えて行けるように促す
- 専門職からの助言、説明・・・医師、管理栄養士、訪問看護師
- ・塩分を抑えた食事の提供(配食、通所・訪問介護サービスなど)
- ・塩分を抑えた食品の差し入れを長男にお願いする(できる範囲)
- ・買物を頼んでいる近所の人や友人に、塩分・水分に配慮する必要があることを伝えて(本人の許可を得てから)無理のない範囲でお願いする
- ・長男の時間のある時に散歩や買い物と一緒に行っていただき、活動の機会を作り食欲を促せるようにする
- ・通所サービスを利用し、体調に合わせた運動の機会確保し定期的な活動により生活リズムを整える
- ・夫と再び自宅で生活することを意識しつつ支援する